

総合体育館の建設について

総合体育館の建設に向けて、15年度から3年をかけて基本構想・基本計画を策定しました。続いて18年度に基本設計、19年度に実施設計を行い、20年度から基礎工事が着工の運びとなりました。22年度内の完成を目指し、工事を進めてまいります。

この事業についての皆様の不安や疑問にお答えし、ご理解をいただきたいと思えます。

■なぜ造る必要があるのですか？

市には、産業体育館(産体)・尾西スポーツセンター・木曾川体育館などの体育施設があります。中でも中心的な役割を担う産体は、昭和38年に繊維見本市や発明展の会場としての使用も視野に入れて建築されました。築後40数年がたち、規模的にも機能的にも十分とはいえなくなっています。

例を挙げますと、昨年の中学校バレーボール大会には市立の全中学校19校が参加しました。女子予選リーグは産体と神山小で、男子予選リーグは翌日に産体で、決勝トーナメン

トは男女が北部中と神山小に分かれて行いました。ほかの種目も同様で、長年にわたってこのような状況が続いています。大会は同じスポーツを愛好する生徒が集まる貴重な機会です。1つの施設で行うことができれば、他校の生徒との交流の機会も増え、さらに豊かな経験が得られ、レベルの向上にもつながります。

若者だけでなく年配の方も、昔に比べればずっとお元気で、健康志向の時代を反映して、スポーツを楽しむ方も増えています。昨年の市民バレーボール大会には1840人・122チームもの参加があり、毎年このことです。会場の確保には苦労しました。健康な市民が増えるのは大変うれしいことです。そのため施設整備が大切であると考えます。

■大きすぎるではありませんか？

他都市を見ますと、競技場と武道場の組み合わせが多いようです。市では、基本計画の段階で用途が限定される武道場に替えて副競技場を2つ持つことにしました。このため競

技場面積は広めにとることができました。人口千人当たりの延べ床面積で他都市の総合体育館と比較しますと、一宮の46・6㎡に対して、豊田60・6㎡、豊橋34・0㎡、岡崎63・8㎡、春日井49・1㎡、小牧116・4㎡となります。最も古い昭和63年建築の豊橋を除けば、決して大きくはないことがお分かりいただけると思えます。ちなみに産体は10・9㎡です。

■なぜ光明寺公園に造るのですか？

光明寺公園は運動公園として整備を進めており、すでに球技場や多目的グラウンドなどが整備されています。総合体育館の建設には文部科学省の補助金を充てるのが一般的ですが、この補助金は規模に関係なく上限が1・8億円です。運動公園内に建設する場合は、公園施設として国土交通省の補助金が使えます。こちらは上限が事業費の半額になっていますので、20億円以上が見込めます。木曾川と豊かな緑に包まれた環境にあって、駐車場も広く、新たな用地を求める費用もありません。

■ほかの事業や財政状況に影響はありませんか？

主として20年ほど前から積んできた基金23億円と、国土交通省の補助金および合併特例債を充てます。校舎の耐震工事など、ほかの事業に影響することはなく、これからの財政見通しも9月号で述べたとおり安定的に運営できると考えています。

■運営で大きな赤字が出るのではありませんか？

営利事業ではありませんから赤字という表現は当たらないと思います。公共サービスとしてのコストは当然掛かりますが、必要な事業は行わなければなりません。市では、行政の効率化のため、事務事業の統合・廃止や民間委託・移譲を進めています。17年度から5年間の集中改革プランでは、140億円の行政改革による効果を見込んでいます。大切なのは、一方で事業の見直しを進めながら他方で新しい施策に取り組むこと、そして双方のバランスを保つことであると考えています。